

機能水ニュースレター No. 101

2020年5月31日発行 一般財団法人機能水研究振興財団 編集担当 堀田国元・本間茂・中藤誉子

協力：日本機能水学会・(公財)ルイ・パストゥール医学研究センター

〒141-0021 東京都品川区上大崎 2-20-8 Tel: 03-5435-8501, Fax: 03-5435-8522

E-mail: kinousui-zaidan@fwf.or.jp ホームページ: <http://www.fwf.or.jp>

お知らせ： 第19回日本機能水学会学術大会ほか	1
案内： 第81回ウォーター研究会セミナー	2
新着情報： 電解水素水	2
報告： ifia Japan 2021	3

機能水関連カレンダー

日本機能水学会： 令和3年度総会	2021年7月3日(土)	長井記念ホール(東京澁谷)
ウォーター研究会： 総会・第81回セミナー	同上	同上
日本機能水学会第19回学術大会	2021年10月30-31日(土-日)	同上

お知らせ

<第19回日本機能水学会学術大会>

2020年に開催予定であった第19回学術大会は、コロナ禍のために2021年度に延期となったが、5月27日にプログラム委員会(岩澤篤郎委員長)が開かれ、概略以下の要領で開催することになった。更新情報は学会HP及び次号NLに掲載。

- テーマ： 新時代を拓く機能水
大会長： 今田千秋先生(東京海洋大学教授)
会期： 2021年10月30~31日(土・日) 9~17時
会場： 日本薬学会 長井記念ホール(長井記念館 B1F) 東京都渋谷区澁谷 2-12-15
講演様式： 対面(100名以内)とWEBのハイブリッド開催
参加受付： 7月上旬開始、10月23日(土)締切(事前のみ： 会員6千円、非会員1万円)
参加費はすべて振込。HP(<http://www.fwf.or.jp/gakujutu.html>)の専用WEBサイトより振込をお願いします。
講演申込： 6月初旬開始、8月上旬〆切
プログラム(セッション)案： 大会長(海洋深層水)、アルカリイオン水、オゾン水、国際、次亜塩素酸水(空間浄化ほか)、新規(食品衛生-微生物制御、SDGs)、特別講演、教育講演

<生物安全実践講習会： 秋以降に開催延期>

前号でアナウンスした生物安全実践講習会((公財)ルイ・パストゥール医学研究センターと(一財)機能水研究振興財団の共同公益事業)は、予定していた第1回実践コースB(5月11~12)と第3回基盤コース(6月17日)ともに、コロナ禍の影響により無期延期となりました。現在、コロナ禍の推移をみながら、秋以降の開催に向けて準備・調整を進めています。

なお、受講対象者は、①「基盤コース」は病原体の基礎知識を必要とする人たち、②「実践コースA」は病原体あるいは病原体を含む材料を受動的に取り扱う人たち、③「実践コースB」は、病原体あるいは病原体を含む材料を能動的に取り扱う方、あるいはそのような方々の教育・指導に関わる人たちとなっています。

日本機能水学会総会およびウォーター研究会総会・第81回セミナー案内

開催日: 2021年7月3日(土)13:00~16:40(開場 12:30 予定)

会場: 日本薬学会 長井記念ホール(長井記念館 B1F)
東京都渋谷区澁谷 2-12-1 (03-3406-3326)
アクセス: JR 渋谷駅より

感染対策: 検温、手指消毒、マスク着用、3密回避、隣間距離確保、換気

参加費: 会員 2千円(機能水学会、機能水財団、オゾン学会、口腔機能水学会、ATP・迅速検査研究会など)、非会員 5千円

参加申込: 機能水学会 HP ウォーター研究会の専用サイトから
事前登録のみ受付(6月25日〆切)

参加定員: 来場(対面)50名、WEB(Zoom)100名。
*WEB参加の場合、会場の電波状況やPCのスペックにより映像や音声の乱れが発生する可能性があることを予めご了承ください。

問合せ: 機能水学会事務局 kinousui-gakkai@fwf.or.jp

更新情報: 機能水学会 HP ウォーター研究会 (http://www.fwf.or.jp/kanren_g.html)



<プログラム>

I. 日本機能水学会およびウォーター研究会: 令和3年度総会(13:00~13:40)

II. 第81回ウォーター研究会セミナー案: 一部変更の可能性もあります。

- 13:45~14:15 1. 機能水を巡る動向 2021-1: ifia Japan 2021、空間浄化プロジェクト、アルカリイオン水関連ほか
堀田国元 ((一財)機能水研究振興財団)
- 14:15~15:00 2. 教育講演: 機能水研究振興財団令和3年度第1回研修会
医学を科学する: イベルメクチンの COVID-19 への適応拡大で見えてきたもの
八木澤守正先生(北里大学大村智記念研究所感染症制御研究センター客員教授)
- 15:00~15:15 休憩
- 15:15~15:35 3. 次亜塩素酸水中の HOCl と OCl⁻ の平衡に影響する NaCl 濃度の検証: Exce による簡便な検証法
鈴木潔 ((株)鈴木微生物研究所)
- 15:35~16:05 4. 電解水手洗いの評価: ifia でコラボした ATP・迅速研究会の考察
ATP・迅速検査研究会
- 16:05~16:35 5. コロナ禍におけるオゾン水の動向およびオゾン水とオゾンガスの不活化機構の違い
錦善則 (日本医療・環境オゾン学会)
- 16:35 閉会

新着情報: “飲み過ぎの”時の肝臓を救う電解水素水 <https://www.waseda.jp/top/news/73022>

早稲田大学人間科学学術院の原太一教授と同大学人間総合研究センターの矢野敏史研究員は、(株)日本トリムとの共同研究において、電解水素水や高濃度水素水がアルコールおよびアセトアルデヒドの代謝酵素に作用することで、有害物質アルデヒドの細胞内量を減らし、アルコール性肝細胞傷害からの保護効果を発揮するというメカニズムを英文誌(Antioxidants)に報告。

この研究において、電解水素水や高濃度水素水が、アルコールの代謝に関わる酵素に作用することで毒性代謝物であるアセトアルデヒドの生成や活性酸素種の生成を抑制し、アルコール性肝細胞傷害を抑制することが明らかになった。

詳細は、<https://www.mdpi.com/2076-3921/10/5/801/html>

報告: ifia JAPAN 2021

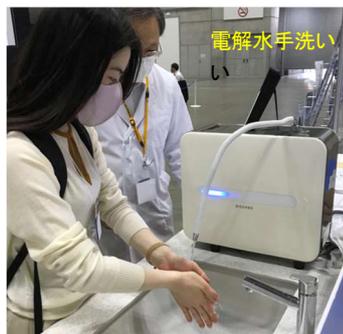
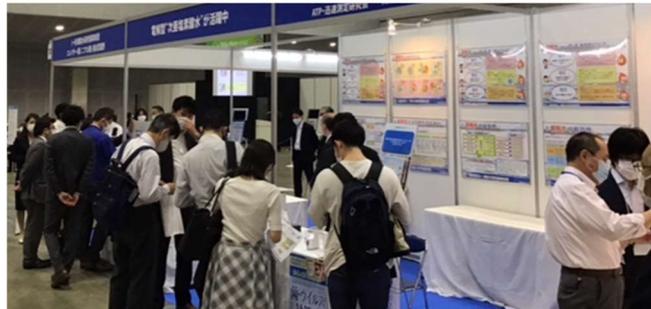
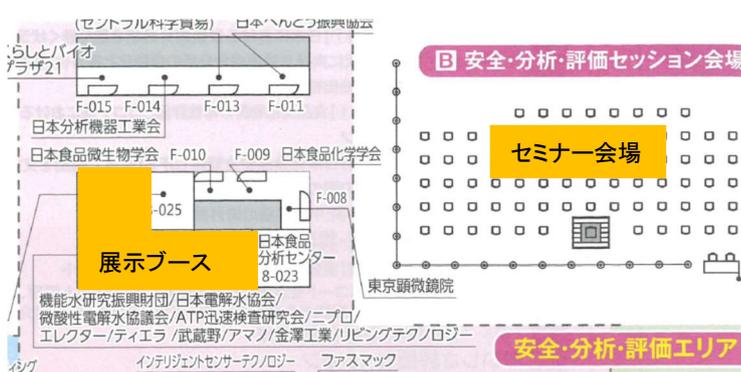


2021年(令和3)年5月12日(水)~14日(金)・パシフィコ横浜 ホールC・Dにおいて2年ぶりに開催された。機能水研究振興財団が主体となって安全・分析エリア「食の安全科学ゾーン」に出展した。展示ブースでは、【電解型“次亜塩素酸水”が活躍中】を標語に、下記団体および賛助会員企業の協力により、ブース訪問者に対応し、手洗い体験(ATP測定によるデータ取りを実施)、パネル展示、パンフレット等により、本来の次亜塩素酸水(食品添加物殺菌料)に関する正しい知識の広報と普及を図った。また、最終日(5月14日14:10~16:30)には殺菌・洗浄に関するセミナーセッション(次頁)が行われた。

ifiaには例年3万人を超える来場があるが、今年はコロナ禍の影響により3日間で8千人(例年の1/4)にとどまり、全体として来訪者も少なく閑散としていた。そうした中、機能水財団ブースは、絶え間なく来訪者があり、主催者側の人たちも驚くほどの異彩を放っていた。来訪者には、正しい次亜塩素酸水について説明するとともに、手洗い体験(ATP測定によるデータ取り:延べ192名)等を実施した。結果として、所期の目的を十分に果たせたと思われた。

出展協力: ATP・迅速検査研究会、(一社)日本電解水協会、微酸性電解水協議会、および機能水財団賛助会員ニプロ(株)、エレクトー(株)、(株)武蔵野、アマノ(株)、(株)OSGコーポレーション、金澤工業(株)、リビングテクノロジー(株)、(株)ティエラ

<展示ブース: 会期中の様子>



<セミナー> 殺菌・洗浄セッション 【“正しい次亜塩素酸水”の知識と衛生管理・新技術展望】

基調講演:	新型コロナウイルスと次亜塩素酸水をめぐる光と影	堀田国元(機能水研究振興財団)
一般講演:	1. HACCP に基づく衛生管理と次亜塩素酸水	金盛幹昌(日本電解水協会)
	2. 食品分野の衛生管理とATP・迅速検査	本間茂・立石亘(ATP・迅速検査研究会)
	3. 有効塩素濃度測定の進歩～リアルタイム測定センサ開発	両角久(株式会社コスモテクノ)
	4. イオンレス次亜塩素酸水の開発と安全性・有効性	川村尚久(ニプロ株式会社)

セミナーは、開演前の受付に長蛇の列ができ(写真)、準備した講演資料が足りなくなるほどの盛況となった。主催者の集計によると、受講者数は 88 名(定員 80 名)に達し、すべてのセミナーセッションの中で最多数となった。配布した講演資料を参考にいずれの講演にも熱心に耳を傾けていた(写真)。これは、コロナ渦における次亜塩素酸水への関心の高さを反映したためと考えられた。



演者：堀田国元氏



金盛幹昌氏



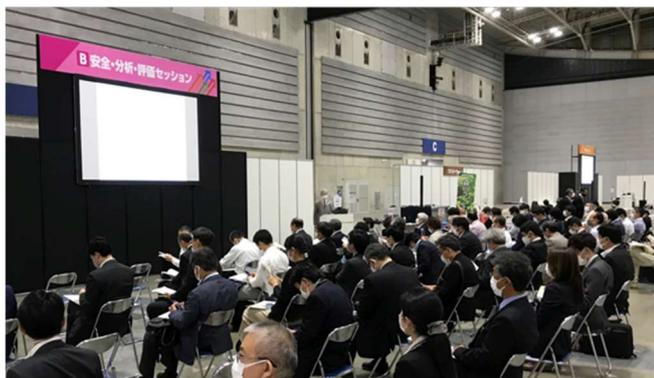
本間茂氏



両角久氏



川村尚久氏



<コラボ総括>

今回の展示およびセミナーでは、前回(2019 年)のコラボ(日本電解水協会・微酸性電解水協議会・機能水財団賛助会員企業)に加えて ATP・迅速検査研究会を含めたコラボが実現した。新構成のコラボだったのでいろいろな課題が浮き彫りになった面もあったが、コラボ効果も見受けられ、今後の協力関係の進展が期待できると思われた。